

学生生徒のみなさん、保護者のみなさまへ

## 新型コロナウイルス禍における学びと成長、立命館学園の財務運営について

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、日常生活、社会・経済活動等に甚大な影響がもたらされました。立命館学園においても、2019年度の終わりから2020年度春には、緊急事態宣言に伴う政府・行政機関からの要請や感染拡大の危機的な状況を受けて、やむなく臨時休校、授業開始の延期、学校・キャンパスへの入構制限等を判断しました。

感染症による影響の深刻化、これまでに経験のないオンライン授業への切替、課外・クラブ活動や生活における制約等、環境の急変に、学生生徒のみなさん、保護者のみなさまの戸惑いや不安が募る日々であったと思います。

そのような困難な、思い描いていたとおりではない環境にあっても、学生生徒のみなさんは懸命に学習・研究を続け、多様な分野、それぞれの課程において人間的成長を遂げてくれています。

一例ですが、行動が制限される中であるからこそ、オンラインの特性・利点を活かし、これまでにはなかった新しい学びや交流の場・あり方が生まれ、学校や世代を超えたつながりの中で豊かな活動が展開されました。

### <オンラインを活用した学びの創出・継続>

- ▶ 学生生徒の声から生まれた学びのコミュニティ「Beyond COVID-19 サイト」

[https://r-rimix.com/covid19/blogs/closing\\_report](https://r-rimix.com/covid19/blogs/closing_report)

緊急事態宣言直後の2020年4月に、学生のニーズを把握するためのアンケートから、オンラインでのコミュニティをつくり、学びを止めない仕組みとして立ち上げました。大学生・高校生を中心に99のプロジェクトが発案・実施され、延べ38,184名が参加しました。社会課題に挑戦するプロジェクトでは、クラウドファンディングを通じた支援をいただき、活動成果の社会発信を行いました。

- ▶ 立命館大学と立命館小学校との連携によるSDGs解決型のオンラインワークショップ

<http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1865>

小学生が身近な食材をテーマに、世界的な課題であるSDGsを考えるワークショップ「Tomato Adventure」を大学の研究者、学生、ネットワークと連携して開催しました。本場・イタリアと中継しながらの調理実習や食品ロスを解決する創作料理のアイデア提案等、オンラインとリアルを組み合わせた学びを通じて、自らの関心と工夫があれば、小さな行動でもSDGs解決につながることを知るきっかけとなりました。

- ▶ 高校生が中心に企画・実行したRSGF (Rits Super Global Forum) 2020

<http://www.fkc.ritsumei.ac.jp/fkc/rsgf/>

[https://www.asahi.com/sdgs/article/art\\_00057/](https://www.asahi.com/sdgs/article/art_00057/)

海外11か国・地域の15校の高校生とオンラインでつなぎ、「What Can We Do Under the Situation

of the Coronavirus? (コロナ禍の社会で私たちができることは?)」をテーマに5日間の議論を行いました。共通の危機に直面する世界の高校生たちが、困難な状況にあるからこそ、例年以上に密度の濃い討議・交流を繰り広げ、教育、貧困、環境、社会・経済生活の観点から自分たちがどう行動するか「PLEDGE (誓約)」をまとめ上げました。

こうした活動では、新たな方法や形態を取り入れていますが、これまでと同じように、多様な分野で、学びの場やつながりを主体的に生み出していく姿、学びや探究を通じた新たな価値創出に挑戦する姿があります。

2020年度には春学期の卒業生・修了者を含めて、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、立命館中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館慶祥中学校・高等学校、立命館守山中学校・高等学校、立命館小学校から総数12,318名が卒業・修了しましたが、人類的課題である新型コロナウイルス禍に直面する厳しい環境のもとで、それぞれの学びを継続し、新しい学びを創り出した経験は、予測困難な社会の中で未来を創造する力になると確信しています。

学生生徒のみなさんの健康を守り、学びを継続するうえでは、居住地域や家族構成、本人・家族の体調等、それぞれが異なる背景を持つことを念頭に、「誰もが、いつでも、どこでも、学び・学びあえる環境」を整備することが急務の課題となりました。立命館学園では、2020年4月以降、新型コロナウイルス禍において学びを継続するための基盤づくりとして、すべての学生生徒児童を対象とした「オンライン授業受講のための環境準備支援金」給付、授業のライブ配信・録画機器の整備、教材や図書館書籍・資料の郵送サービス、電子書籍の追加購入、パソコンや通信機器の無償貸与等を行いました。また、経済面・生活面での支援として、家計急変等経済支援金や食料品等の支給とともに、学習相談、就職活動・資格取得相談、メンタル・ヘルスケア等において相談員の増員やオンライン窓口の仕組みを導入し、学生生徒のみなさんの悩みや不安を和らげるための取り組みも行ってきました。

一部の支援は、保護者や校友のみなさま、教職員をはじめ、多くの方々からのご篤志をいただいて実施しました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

これまでに実施してきた取り組みは「2020年度事業報告書」にもまとめていますが、新型コロナウイルス禍に関わって、立命館学園の財務運営についてご説明します。

2020年度の収支決算では、事業・業務の形態変容（オンラインへの移行・併用）による旅費交通費支出の減（2019年度決算と比べて約14億円の減）や、一部期間の入構制限による光熱水費支出の減（同約4億円の減）がありましたが、新型コロナウイルス禍への対応として総額約47億円の支出を行い、本業である教育研究事業における収支状況を示す教育活動収支差額は約25億円の支出超過（2019年度決算と比べて約34億円の悪化）となりました。

在校生や卒業生をはじめ、社会に対する学校法人の責務として、大学・学校の永続的な運営を図るうえでは、毎年度の収支状態を健全に保つことが原則的な考え方です。

そのうえで、立命館学園は、学生生徒の健康と安全を守り、社会的危機の拡大防止に努めながら、同時に、教育研究を継続し、環境が急変する最中であっても、学生生徒の学びの機会を保証し、人間的成長のきっかけを提供するために最大限の取り組みを行うことが、学費の重みに応える私学としての使命であるという認識に立っています。新型コロナウイルス禍に伴う急変は、教育研究事業の継続、学生生徒のみなさんの学びの継続が危ぶまれる重大な局面であることを重く受け止め、相応の深慮を加えたうえで、単年度の教育活動として収入を超える支出の判断を行いました。

<立命館学園独自の新型コロナウイルス禍対応策>

対応策	概要等	主な科目	支出額
学生生徒等への緊急支援・緊急対応	学びの緊急支援奨学金(オンライン授業受講環境整備支援、家計急変等経済支援)、PC・Wi-Fi ルータ等無償貸出、図書郵送サービス、海外派遣プログラム等入国・キャンセル料支援等	奨学金、賃借料、委託費、消耗品費、通信費等	22.8 億円
オンライン・ハイブリッド授業等実施に関わる学内環境整備	ハイブリット授業等環境整備(教室映像・音響機器、ライセンス・ソフトウェア等)、BYOD 環境整備(キャンパス無線 LAN 拡張、教室等のコンセント・電源増設)、テレワーク環境整備等	機器備品支出、消耗品費、委託費、支払修繕料、通信費等	8.6 億円
感染防止対策に関わる環境整備	教室・食堂等への防疫コーティング、換気設備増設、発熱外来設置、教室什器入替(個人机化)、その他感染防止対策(サーマルカメラ設置、ドア・手洗い非接触化、地方入試合場増設、アクリル板設置等)	建物支出、機器備品支出、消耗品費、委託費、支払修繕料等	15.0 億円
学生生徒等への情報提供、意識啓発等	ウェブ授業のための特別サイト、オンラインサポートサイト導入、新型コロナウイルス感染症の理解促進・意識啓発のための動画・配付物作成等	委託費、その他雑費等	0.4 億円

財務運営として、こうした判断が可能になるのは、学校法人が、過去・現在・未来にわたる長期的視点をもった財務構造にあるからです。大学・学校は、教育研究や学生生徒の学びの環境として、校舎、図書館等の建物や教具・校具等の機器を整備しています。これらの固定資産については、取得時はもちろんですが、将来における老朽化、教育研究の高度化やスタイルの変化等に即した更新整備を行うための資金が必要です。学校法人は、こうした資金の負担について、取得・更新等を行った年度に在籍する特定の世代に集中させるのではなく、長期的な視点で平準化しながら必要な自己資金を積み立てる財務構造を持っています。2020 年度には、この資金の一部を緊急的に取り崩して新型コロナウイルス禍への対応策を実施しましたが、長期的視点での安定した財務基盤があるからこそ、学生生徒のみなさんに臨時的な追加負担をお願いすることなく急変等への対処を迅速に行うことができました。昨今、自然災害、パンデミック、サイバー攻撃、地政学的緊張等、事業を継続するうえでの不確実性が高まっています。今後も可能な限り安定的に学生生徒のみなさんの学びの機会を保証し、教育研究の持続的な質向上を可能にするために、その実現を支える財務基盤の強化を図ることが学校運営の課題のひとつとして重要性を増しています。

日本の教育に対する公財政支出は、国際的に見た水準の低さと、私立大学の学生ひとりあたりの公費助成額が国立大学の10分の1にも満たないという格差があります。こうした状況を背景として、学費は私学における基幹収入としての性質をもっています。私学の運営にとって学費は不可欠な財源であり、学費収入による財務基盤があるからこそ、教育研究の質を保証し、持続的な展開・改善が実現できています。また、持続的な質向上の営みは、在学する学生生徒にとっての教育条件改善であると同時に、卒業生にとっても母校の価値向上として還元されるものであると考えております。

2021年度から、学園のR2030計画が始動します。

「挑戦をもっと自由に」をビジョンとするR2030計画では、「社会の変化に対応し、自ら考え、行動する人間」をはじめとする3つの人間像、「新たな価値創造の実現」をはじめとする6つの政策目標を掲げています。2018年度に策定したこれら学園ビジョンR2030は、新型コロナウイルス禍における経験をふまえると、いっそう切実で重要な課題となっています。立命館学園は、ウィズコロナ・アフターコロナの世界を視野に、学生生徒のみなさんがそれぞれの志をもって学び、未来社会を創造する人材として成長していくこと、また、そうした人材が集い、学び、探究し続ける拠点としての学園像の実現にむけて挑戦を続けます。

依然として新型コロナウイルスによる災禍は深刻な状況にあります。新型コロナウイルス感染症による影響を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げます。また、治療や感染防止に日夜ご尽力されているみなさまに敬意と深い感謝を申し上げますとともに、一日も早い感染症の収束をお祈り申し上げます。

2021年5月31日

学校法人立命館

常務理事（財務担当） 奥村陽一